

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700026		
法人名	社会福祉法人香寿会		
事業所名	グループホームしいの木荘		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区森61-1		
自己評価作成日	平成25年11月8日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成25年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな静かな環境の中に建つ温もりのある施設です。常に基本理念を中心に置き、尊厳を守ることを重視した介護を実践しています。行事やクラブ活動も豊富に実施し、特に恒例となっている法人施設全体で実施する“しいの木荘夏祭り”は、地域住民、家族、利用者間のよき交流の場、楽しみの行事となっています。職員同士は、話し合いの機会を多く持つことで良好な関係を保っており、家族との信頼関係、利用者への支援に良い影響となって現れていると思えます。事業所が孤立しないよう、併設の各事業所とは行事、研修等連携を図りながら事業を進めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①法人のスケールメリット・・・同一敷地内には、介護老人福祉施設・通所介護事業所・軽費老人ホームが併設されており、行事(流しそうめん、焼き芋、ハートフルフェスタ等)や職員研修、健康管理面、緊急時・災害時対応での協力体制、地域交流等、法人のスケールが有用性を発揮している。②家族・地域と共に・・・運営推進会議や様々な行事等の場面で家族・地域(ボランティア含む)の協力が見られ、入居者にとって今までの生活の延長線上での日常を体感できる環境が整っている。③適度な刺激・・・日常生活の中に非日常を上手く盛り込み適度な刺激が生じるよう環境設計している(クラブ活動:書道、音楽、作劇、読書、喫茶、料理、仮想、化粧等、地域見聞外出、おやつ作り等)。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念及び事業所の運営方針を、毎日唱和するとともに、研修の機会を設けるなどして理解を深めている。尊厳を重んじながら、家庭的な雰囲気の中で生活を送っている。	利用者の「人格権尊重」「本人本位」「生きがいある生活」をキーワードに家庭的な事業所となるよう全職員が意識しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の区長や運営推進委員より祭り等の行事の案内をいただき、出かけている。社会資源を利用し、買い物ツアーや外食に出かけるなどして地域住民としての意識を持ち続けて頂けるようにしている。	法人の『夏祭り』も地域交流の場となっている。地域の見聞として外出(ボランティア協力あり)を実施し、また、地域主催の行事にも参加したり、園児・児童との楽しい時間を共有している。トライやるウィークの受け入れも恒常化している。	今後も、地域の社会資源として、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、利用者の状況や事業内容を報告するとともに忌憚のない意見を求めるなどして意見交換をし、認知症について理解をしていただくように努めている。福祉体験等で地域の中学生を受け入れるなども実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では広く意見を求め、頂いた意見は職員会議に持ち帰り、検討するなどして事業の推進に反映させている。秋祭りの案内をいただき参加した。	会議出席者からは、入居者の事業所・地域での生活が豊かになるための様々な意見や提案等を賜り、共に達成できるよう図っている(地域行事、児童との交流、畑の活用、ボランティアの活動等)。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定調査での打ち合わせや地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席している。また地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席している。その他必要に応じて町担当者と連絡を取っている。	地域ケア会議(月例、地域包括支援センター主催)へ出席し、認知症高齢者への適切なケア実践のための様々な情報交換・勉強会等を行っている。運営推進会議での意見交換は、有効に機能している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も職員研修の課題として取り上げ、職員相互で資料を作成し勉強会の機会を持って理解を深めるとともに意識の統一を図っている。	職員は身体的拘束等の弊害を十分理解し、日々のケアの中での課題をミーティングで検証し、「利用者本位」を基準に判断している。「スピーチロック」には特に留意するようにしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」についても、職員の年間研修計画にあげている。事業所内研修会を開催し理解を深めるとともに、職員相互での牽制意識を持って虐待防止に努めている。	認知症高齢者への虐待へつながらる恐れのある「不適切なケア」のレベルから検討し合っており、職員のメンタルヘルスのについても配慮しながら閉塞感のない事業所創りに取り組んでいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、全職員が理解を深めるよう努めているが、必要な場合に助言できるまでの理解は難しい現状にある。	現在、制度を活用されている方はおられないが、認知症高齢者への支援の一方策としての必要性については、研修等を通じて全職員が理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、重要事項説明書等をもって説明を行い、疑問点や不安点が残らないようにしている。事業所に関する問い合わせや見学には“ご利用のしおり”等を用いて随時対応している。	見学、入居予定者との面談並びに事業所の現況（「できる事、難しい事の明確化」）及び質疑応答を通じて疑問・不安感がないような状態にして契約を締結している。入居後も質疑は常に聴き取る体制を敷いている。	日常的に家族等からの質問が多い内容を職員から収集し、家族向けの「Q&A」の作成もされては如何でしょう。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で、ご家族の代表委員に意見を出して頂く、面会の際に要望を伺う等して、職員会議で話し合い、運営に活かしている。	運営推進会議、来訪時、電話等様々なチャネルで意見・要望等を聴き取る機会をも設けている。入居者の受診支援（定期受診以外）について協働することを検討し実施している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回開催される運営委員会に出席し、事業所の状況を報告するとともに法人内事業所間のできる範囲の情報の共有の場、或いは検討の場ととらえ反映させている。	月例の職員会議での意見・要望等については、即時決定できる項目はその場で、要検討項目は、直後の本部での会合（運営委員会）に諮り、結果は必ずフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、常より職員の意向を聞ける体制づくりに努め、職員個々ができるだけストレスを溜めこまないよう配慮している。職場環境や条件についても配慮し、やりがいの持てる環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修の機会を設け、職員一人ひとりの、又、事業所全体の資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催される「香住区担当地域ケア会議」に参加し、情報の交換及び情報の収集を行い、職員会議等の場に持ち帰るなどしてサービスの向上に反映させている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始までに事前面接を行い、ご本人、ご家族ともで面談を行い、生活歴をはじめ不安な事項等を聞かせていただく。生活の場が変わっても安心して生活ができるよう環境整備を行うなどしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の事前面接時より、ご本人やご家族の不安や要望を伺いながら、事業所の説明を十分に行うとともに疑問点も伺い、両者確認しながら利用開始に至るように心がけている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の事前面接等で、ご本人、ご家族より生活歴及び日常生活の様子、趣味、特技、嗜好等を確実に聞き取ったうえアセスメント表を作成し、必要なサービスの見極めを行うよう対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、それぞれ出来ることはしていただき、自尊心と生き甲斐が増すような支援に努めている。人生の先輩としてのご利用者の立場を尊重し、学ばせて頂く気持ちを大切にしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の訪問時や都度の電話連絡の際には、日々のご様子を伝え、職員と家族の認識がかけ離れないように努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の秋祭りに出かける、面会の機会を多く持っていただく等して、地域で暮らす事、馴染の場・人との関係の継続の支援に努めている。	出身地域の祭りに参加したり、散歩中に幼馴染みとの会話を楽しんだり、家族との外出(食事、ドライブ等)等今までの生活が継続できるよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お部屋でのお一人の時間も大切にしているが、リビングや食卓で皆さんで過ごされる機会を多く持つて頂くようにし、見守りの姿勢を重要視しながら、お互いに支え合う仲間として関係づくりに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には病棟に見舞ったり、契約終了後も近親者に状況を伺うなどして、関係を継続して行くことに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、ご利用者の言葉に耳を傾け尊重するようにし、ニーズを挙げている。また面会時等にご家族の要望も伺うようにするなど、ご本人の思いに添った生活ができるように努めている。	入居者との日々の係わりのなかで「本人の望む日常とは？」を思考しながら情報を集約している。職員各人が受け止めた内容は、連絡ノート等で共有し支援に活かすようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を、ご本人、ご家族から聞かせていただき、サービスに活かしている。ご家族の面会等の訪問時にも随時ご意向を伺い、必ず全職員が共有している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	都度、ご本人の様子を伺いながら言葉かけを行い、クラブ活動等をするなかで残存能力や心身の状態を把握して職員会議等で話し合いをして職員間の情報交換をし、より良い介護が出来るように努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のご本人の様子は適切に記録しモニタリングしている。ご家族が面会等で来所されたときご要望をお聞きしたり、必要により電話でお聞きして、職員会議等で話し合い全職員の意見を反映させて介護計画に活かして作成している。	本人の思い・意向、家族の要望等に担当職員の意見も踏まえ、有用性の高い介護計画を作成している。入居者の現況は、月次ケアカンファレンスで把握し介護計画との整合性チェックも職員全員で実施している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、日々の様子や気づきを適切に記入している。また、記録は統一したケアの実践に必要なものであり、行った援助をふり返るものでもあるとの意識を持つことで気づきを引き出し、介護計画の見直しにも活かしていけるよう努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、ご家族のご都合とご本人の様子を伺いながら、画一的ではなくその時々々の要望に合ったサービスの提供に努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長や地区の方と協力し、行事等の案内をいただき、運動会や秋祭りの見学をするなど、暮らしを楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族と連携を図り、ご家族のご希望通りかかりつけ医をご要望された場合は、そのかかりつけ医の受診の支援をしている。	入居前からのかかりつけ医を継続受診しており、定期受診外の通院同行(歯科、眼科、整形外科、耳鼻科等)も家族と連携して取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要の都度、併設の特養の看護師に相談し、ご利用者が適切な処置や受診が受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、ご本人の様子を書面等で病院に伝え、入院中は面会や病院関係者及びご家族と連携し情報の共有を図り、退院時は病院主催のケアカンファレンスに出席し、また病院より書面で入院時の様子の情報を得ている。	入院中は、入居者の不安感が軽減するよう、また病院・家族との情報を共有するため面会を実施している。退院前には予後に不具合が生じないようカンファレンスに出席し情報を入手している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になられた時は、家族及び病院と連携してチームを形成し家族の要望に応え、当事業所で出来る事は最後まで支援している。	事業所で「できる事」を精一杯支援させていただくことを重度化・終末期への対応方針としており、家族・医療関係者と相談の下、ご本人にとってのぞましいケアとなるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化し、全職員の周知を図っている。また、消防署の指導のもと、AEDを用いた救急救命講習会を開催し、応急手当等の訓練を行うなどして急変時に備えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を含めた防災訓練を実施し、有事の際の利用者の避難方法を身につけるようにしている。地域の消防との訓練には至っていないが、運営推進会議を通じ、地域の協力をお願いしている。	事業所の訓練(日中帯・夜間帯想定)を年2回実施し、有事の際の避難経路、時間等を確認している。災害時には、地域の消防団に協力いただくよう依頼している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳の保持、プライバシーの保護については職員研修で理解を深めるとともに、日々の業務の中でも職員同士言葉をかけ合い、尊厳が保たれるよう努めている。特に言葉遣いや言葉かけは日常的に重要なことであり、お互い注意し合っている。	入居者個々人の「自尊心・羞恥心」に配慮し、入居者との距離感を大切に、ご本人にできる事をその方なりの取組み方法で実践できるよう支援している。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、散歩、食事などご利用者の希望が聞き出せるように都度思いを伺ったり、分かりやすい言葉での会話の機会を持つなどして、自己決定を尊重している。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日課表通りに業務を運ぶのではなく、あくまでもご利用者の生活を支援させていただくことを基本に置き、一人ひとりの気持ちを伺いながら、状態に合った生活を送っていただくよう努めている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はご利用者それぞれが選んだ物を着用して頂いている。アドバイスを求めるご利用者もあり、一緒に選ぶこともある。高齢になってもおしゃれ心を持ち続けられるよう支援している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理クラブで希望の献立を考えるなど、食事がより楽しみとなるよう支援している。また、食事の準備、片づけ等各々のできることをできる場面で発揮して頂き、食を中心に置き、生活の充実につながるようにしている。	食事メニューを聴き取り、調理、盛付け、配膳・下膳、後片付け等できる部分を職員と協働している。外食(喫茶含む)やイベント食も楽しみ事となっている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎の食事の摂取量並びに水分量を記録し、個々の状態の把握を行っている。塩分やカロリーにも配慮し、又食事量や食事形態も個々の状態に合わせて献立をたてている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前・後には嗽等の口腔ケアを促し、必要に応じて介助も行っている。口腔内の状況や義歯の確認、歯磨きの支援も行い、美味しく安全に食事が食べられるように支援している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、ご利用者個々の排泄パターンに合わせた声かけや誘導を行い、できるだけトイレで排泄が適うように支援している。特に羞恥心やプライバシーへの配慮には常々職員間で気を付けている。	入居者個々人の排泄パターンやそのサイン(表情・仕草等)を把握し、できる限りトイレでの排泄ができるよう声掛け(羞恥心配慮)に留意しながら支援している。夜間帯はオムツの方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に繊維質のメニューを取り入れたり、起床時に牛乳等を飲用して頂くなどして、また、腹部マッサージを取り入れたり自然排便が適うように工夫している。しかし緩下剤に頼らざるを得ない状況にもある。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い、週2回以上入浴して頂けるよう心掛けている。拒否のある利用者に対しては無理強いせず、安心、納得の声かけをおこなうことで、時間的に考慮して入浴頂いている。	毎日入浴を実施しており、週2回以上ゆったり、穏やかに入っていただけるよう、無理強いせずご本人のペースで実践している。季節湯(菖蒲湯、ゆず湯等)は好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者個々の生活リズムに合わせて、また、その時々身体等の状況に応じて、休養・休息したり、安心の声かけで入眠できる環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用時には、職員がご利用者の名前と薬袋の名前を確認し、確実に服用されるまで確認している。薬が変更になった場合などは、連絡ノート等で全職員が確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を重んじ、お一人おひとりにあった場面づくりの支援を行っている。家事、書道、野菜作りなど経験を活かした役割や楽しみの取り組みを行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、天気の良い日は施設周辺に散歩に出かけている。桜の花見、紅葉狩り、近くのレストランへの飲食等、ご家族の協力を得ながら戸外へ出かける機会を作っている。	近隣への散歩や買い物、草花や野菜(レタス、人参等)への水遣り、地域での行事参加、季節ごとの花見(梅、桜、紅葉等)、ボランティア・家族協力での外出(地域見聞録)等適度な刺激となる外出支援を計画的・意図的に実施している。	個々の利用者の心身状況により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員やご家族と一緒に買物に出かけ、希望の物を購入し、ご本人に支払って頂くなどの機会を持つようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるよう、ご自宅へ電話をかけていただいたり、ご家族へ年賀状を書いていたいたりしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かで自然豊かな環境の中であり、そこに四季を感じることができる。共有部分、個人の居室は常に清潔を心がけ、特に玄関ホールの吹き抜けは明るく開放的である。随所に季節の花を活けるなどして居心地よい空間づくりの工夫をしている。	玄関ホールの吹き抜けの天窓は、強弱のある採光や梅雨、雪等季節を感じる事ができる環境となっている。また、リビングに設置されているソファは、憩いの場となっている。季節毎に変更する生花や飾り物等落ち着いた時空間となるよう演出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係には常に配慮し、トラブルにならない環境をと、席を変えたり、間に入ってフォローしたりと、ソフト面、ハード面から行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、使い慣れた物を持参して頂くなどして、馴染みの物を使用して頂いているが、すべての方ではない。今後も利用開始時或いは随時にご家族にお話しするなどして、居心地よい環境整備が必要だと感じる。	使い慣れた馴染みのもの(家具、写真、仏壇、若い時の自身の作品等)を持ち込み居心地の良い居室となるよう支援している。洗面台が設置されており衛生的であり、畳敷きの居室等ADLへの変化にも配慮している。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心した生活を送って頂けるよう、又、できるだけご自身でできることをして頂けるよう、手すりの位置、福祉用具の位置や設置に配慮している。場所の違いに混乱されないよう声かけの工夫をしたりしている。		